

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590700062		
法人名	株式会社 ホームケアサービス山口		
事業所名	グループホーム のんびり村 米川		
所在地	山口県下松市大字下谷字砂の本179		
自己評価作成日	平成24年9月1日	評価結果市町受理日	平成25年2月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年9月21日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな環境の元、地域の方と一緒に行事に参加して(運動会・入学式・お祭り、神事など)連帯感や達成感、感激など心躍る時間が持てるようにいろいろな機会を作って利用者や職員も一緒に楽しく過ごせることを目標にしています。  
全社的にダイバーショナルセラピーに取り組んでおり、自分らしく個々の楽しみや喜びの実現に向けてかかわりを持ち自己の持てる力を発揮して生活に張りが出るように関わって行く事を目標としています。より良い睡眠が保てるようにスリープマネジメントに取り組んでいます。16時から体温を上げるような運

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな自然に囲まれた事業所は、地域との関わりを大切にしておられ、多くの地域の行事(神社まつり、地蔵まつり、米泉湖まつり、花火大会、どんど焼き、小学校の入学式、運動会、公民館でのしめ縄づくり、消防団の出初式など)に、利用者や職員が参加され、地域の一員として交流を深めておられます。運営推進会議のメンバーには、地域の各種団体の代表者が、10名以上おられ、会議では、利用者の参加できる地域行事の把握や、地域との関係作りを活かしておられます。利用者一人ひとりに合わせた外出や楽しみごと、活躍できる場面を多くつくり、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援しておられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	私たちは、地域の一員として地域の方と行事に参加し、今迄の生活のつながりを切らないように暮らしていきます。緑豊かなこの地域でその人らしく過ごしながら社会の一員として地域の方と楽しく生活を送って行きたいと考えています。施設内に閉じこもりがちになるが、出来るだけ地域の方との交流の機会を持つように地域の行事や季節の行事を取り入れ、外出の機会を持ち、社会の一員であることを感じる事が出来るように心がけている。	「私たちは、地域の一員として地域の方と行事に参加し、今迄の生活のつながりを切らないように暮らしていきます」「私たちは、緑豊かなこの地域でその人らしく過ごしながら社会の一員として地域の方と楽しく生活を送って行きたいと考えています」という事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示して、毎朝の朝礼で唱和し、その理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の役員に地域の方が多く含まれている。地域行事に参加し地域の一員として地域住民との関係を持つ機会を作っている。運動会や入学式・夏祭りなどへの参加。児童館の子供が散歩の途中に水分補給に立ち寄るなど。移動図書館の利用など地域の方が情報を下さり生活の中に「本」に接する機会が増えた。	自治会に加入している。神社まつりや地藏まつり、米泉湖まつり、花火大会、どんど焼き、小学校の入学式、運動会、公民館でのしめ縄づくり、消防団の出初式などに参加している。児童館の子どもたちが立ち寄りたり、移動図書館の利用、ボランティア(習字)の来訪、事業所の秋祭り、畑づくりで地域の人が畑を耕したり、草刈りの支援があったり、野菜や花の差入れがあるなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢化している地域であり、近隣住民からの通報により民生委員の方と協力してサービス利用につなげ、生活の質の向上、安否確認などが行えている。防災訓練などを一緒にやりましょうと話が運営推進会議で議題に上がった。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	初めての自己評価であり外部評価の為比較はできないが、必要な取り組みについて理解が出来た。記録の取り方がより具体的になってきている。	管理者は評価の意義について職員に説明し、自己評価票を閲覧できるようにして職員に記入してもらいまとめているが、評価項目を全職員が理解するまでには至っていない。評価の過程をケアの振り返りと捉えている。	・評価項目の理解と全職員での取り組み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民、班長さん、公民館長、民生委員など地域の中心となる方が運営推進会議の役員となっただけではない。祭りや地区行事などへの参加時の協力など入居者の方が参加しやすい環境を作っただけではない。椅子を準備していただくなど細やかな心遣いを頂いている。運営推進会議の役員の方から移動図書館の利用の話が出て「本」との関わりが増えた。	自治会長、老人クラブ代表、地区社会福祉協議会代表、民生委員代表、米川地区地域づくり代表、米川環境整備委員会代表、子供会、米川消防団代表、婦人会代表、公民館長、市職員、家族代表、事業所職員などが参加し、2ヶ月に1回開催している。事業所の状況、活動、課題についてなど報告し、意見交換している。参加者の意見から、地域行事を把握し、祭りへの参加など意見を運営に活かしている。	・記録方法の検討
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃に行っている活動について理解していただけるように機会あるごとに説明をしている。毎月、担当者に会う機会があり、制度について説明を受けるなどしている。	運営推進会議時の他、電話や出向いて情報交換をしている。不明な点は担当者に相談し助言を得る他、困難事例は地域包括支援センターに相談し、助言を得るなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には常時開放している。利用者の状況に合わせて一時的に玄関を施錠する事がある。特に夕方など帰宅願望が強くなり不穏となっている人がいる場合のみ玄関施錠。2階でエレベーターでの移動となっており、ほとんどの方は一人では下りない。一人だけ自由に1階に下りる等している。	マニュアルがあり、事業所開設前に、全職員が研修を受け、正しく理解している。玄関の施錠も含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては気付いた時に、管理者が注意している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人職員が入社した時に、話をしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に必要と考える方がおり、その際に職員に説明を兼ねて活用について話しをした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前に契約書などの説明を行っているが、質問には随時答えるようにしており。また複数人の家族に説明する機会を持つなどしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付担当者を置き、また第三者機関を置いていつでも気軽に苦情など申し出ていただける環境を作っている。苦情＝質の向上に向けた材料と受け止めている。苦情は、職員の質の向上のための材料と考えて利用説明時から相談受付や苦情受付の話はしている。	運営推進会議時や電話、面会時等に家族から意見を聞いている。相談や意見がある場合は苦情報告書に記入し、職員で話し合って共有し、運営に反映させるように努めている。利用者からの意見は月1回来訪している市の介護相談員が聞き取っている。相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明し周知を図っている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第3水曜日に職員会議を持ち、自由に意見が出せるようにしている。出席できない職員は、書類で意見を伝える等、いろんな方法で意見が出せる環境を作っている。	月1回職員会議で職員から意見や提案を聞く機会を設けている他、個人面談や日常業務の中でも意見を聞いて、勤務体制の見直しや業務改善、記録の改善、休憩時間の改善など、意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談などの機会を持ち、職員間の環境や人材の適材適所に向けた努力をしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ダイバージャーナルセラピーの研修会やグループホーム協議会の研修に参加している。 認知症講演会などに参加している。認知症の研修会や地域で催される講演会など自由参加の研修も含めると毎月、数回研修会がある。	外部研修は職員の段階に応じて受講の機会を勤務の一環として提供しており、2名の参加がある。内部研修は併設の小規模多機能型居宅介護事業所と一緒に月1回、管理者が講師になってテーマを決めて実施し、数名の職員が参加している。欠席者は資料を見て学んでいる。新人研修は、働きながら学べるように、管理者やリーダーが業務の中で指導している。	・研修の充実

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	下松市・周南市のグループホームで事例検討会を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用希望者には事前に会い、直接話を伺うことで要望に少しでも近づけるよう努力をしている。また出来る限り施設に来ていただき、雰囲気や環境を見て本人に判断していただくようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に施設見学を勧め、その際に困りごとや要望などを伺うようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居が必要な方が来られた場合には、現在満床の為、他の施設を紹介するなどしている。 またグループホームの管理者の集まるの時に入居した方が他の施設の申し込みしを取り消していない場合などもあり確認合っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	男性女性関係なくその方が出来る仕事があれば職員と一緒に料理や畑仕事など行うようにしている。見学者への施設説明もして頂いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に制限を付けることなく出来る限り自由に面会に来ていただけるようにしている。多い時には10人もの家族がお一人の方に面会されたケースもある。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月、知人との外出と食事会を持つ方もいる。犬と会うことを楽しみにしている方もいる。家族の付添の元、外出や外泊も自由に行える。	家族の協力を得て、墓参り、法事、葬式、愛犬に会いに行く他、馴染みの美容院の利用、知人と外出をし外食をしたり、職員と自宅に行き家の窓を開けて風を入れるなど馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルゲームやカラオケ、塗り絵などいろんな場面に合わせた援助を行いその人らしく参加出来る様支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された時にも、お見舞いに行くなどして関係を断ち切らないようにしている。 MSWと連携を取り、退院時期や受け入れの状態の確認など情報交換を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のさりげない会話から意向の把握に努めている。 また、本人の話に傾聴し、その中から意向をくみ取る。	入居時のアセスメントシートを活用する他、日常の関わりの中での会話や行動から利用者の思いや意向を把握し、職員連絡帳に記録し、全職員で共有している。困難な場合は、表情や行動などから推し測り、把握に努め本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他のサービスを利用していた方からは、担当ケアマネより情報を頂いているが、サービスの利用が初めての方は、日常の会話から生活歴などを集めるようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	得意な事を探し、その方の負担にならない程度に仕事として任せている。やる気を引き出すように心がけている。水やりや掃除など		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向を確認して本人の思いを取り入れケア内容を作るようにしてる。8月より担当制にして、より細やかに本人の思いや困っている事がプランに反映できるようなる。随時プラン変更が出来るように情報が細かく収集できる環境として、担当制を取り入れた。	本人、家族、主治医、職員の意見を参考にし、3か月に1回開くケアカンファレンスで話し合い介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、3ヶ月毎の見直しや、利用者の状態の変化に合わせて見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護職員や看護職員、主治医などより情報を収集し介護計画に反映させるようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	思い出の食事や場所があれば出来る限り提供したい。食事をするために外食に出かける。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方の協力を得て畑を作った。プチ田んぼは入居者からの提案で作った。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を利用することが出来るので安心して受診が出来ると利用者様、ご家族からも喜ばれている。主治医との関係を断ち切ることなく、安心して受診が出来る様、情報を提供を行うようにしている。	利用者それぞれのかかりつけ医や協力医療機関への受診の支援をしている。協力医療機関から月1回の往診がある他、他科の受診の支援をし、診療情報提供書を作成して共有し、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の異常に気付いた時には看護師に報告し、必要となれば看護師が付添、病院受診となる。山縣様の例		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	周南記念病院のMSWや徳山中央病院のMSWや看護師との連携をして対応できる状態について話しあうなどしている。退院時にはサマリーにて状況把握が出来るようお互いが協力し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	8月現在、重度化の指針、見取りについての書類を検討中である。全社的に書類を共通のものとするため、現在検討中である。	重度化や終末期に向けた指針の見直しの検討中である。利用者、家族には、入居時に事業所のできる対応について説明している。これまで、重度化した人はいない。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	訓練はまだ行えてはいないが、外出などの機会を通じて対策や行動について確認し合っている。 誤薬・転倒事故の後に検討会を開いている。'ひやり・はっと事故が起こった時には、出来るだけ早い時期に検討会を開くようにしている。 また、回覧し職員が把握しやすい環境を作っている。	ヒヤリはっと、事故報告書に記録し、その場にいる職員で対応策を話し合い、数日内に職員会議を開いて、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。2名の職員は救急救命講習を受講している。応急手当や初期対応の訓練は実施していない。	・全職員を対象とした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	10月に訓練を実施予定 10月初旬に地域住民と合同の訓練を予定しており、話し合いの途中である。	事業所開設前に訓練を実施しているが、その後訓練は実施していない。地域との協力については運営推進会議で話し合っているが、協力体制を築くまでには至っていない。	・災害時(火災、地震、水害等)の避難訓練に実施 ・災害時における地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	昔から呼ばれている、その地域での呼び名で声掛けをしている。 あえて昔から呼ばれている「呼び名」で声掛けするようにしている。	接遇マニュアルがあり、事業所開設前に研修を実施し、職員は理解して利用者に接している。利用者を人生の先輩として尊敬し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように取り組んでいる。言葉かけが気になるときは、管理者が注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から自由に自分の行いたいことを聞き出すような声掛けを行って実現に向けて準備をしている。(外食など)		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝が弱い方がいるが、その方の時間に合わせて食事を提供している。食事の好みについても出来る限り対応が出来るようにしている。(お粥に変えるなど)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれの日を活用するなど気分転換の日を作っている。散髪なども本人の希望の形にしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りは毎月1回取り入れている。おにぎりなどよく作っている。おにぎりなどする時は男性がご飯を混ぜて握りやすいように冷ます担当を受け持つなど、自然と役割が出来てきている。	朝食以外は法人からの配食を利用している。利用者は下膳、台拭き、食器洗いなどを職員と一緒にいき、職員は弁当持参で同じ食卓を囲み、会話しながら、利用者が楽しく食べられるように支援している。ウッドデッキで食事をしたり、弁当を作って戸外で食べたり、家族や知人との外食やおやつづくり(ピザ、柏餅、あんみつ、ホットケーキ、カボチャムース)など、食べることの楽しみを工夫をして支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量がわかるように記録を取っている。また入浴後には、吸収が良いようにポカリスエットを準備している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けを行って口腔ケアを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレに行った時間を付けており一人一人の時間に合わせて声掛けを行い、排泄の失敗やおむつの使用を減らすようにしている。声掛け誘導にておむつの使用量が少なくなった方がいる。	排泄チェック表を活用して排泄のパターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせたタイミングや声かけ、誘導でトイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談し緩下剤などで調節している。水分補給にも気を付け水分が十分たりにように摂取量を記録している。食事管理栄養士に相談し食物繊維を多く取り入れた献立にする。また腹部マッサージを行い便秘予防に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	拒否がある時は無理強いせず次の日に回し、他の方に入浴を勧めるなどしている。利用者の方の好みのお湯の温度に合わせるようにしている。入浴時間は午後からと時間が決まっているが、融通は出来る環境にある。	入浴は3日に1回、14時から15時30分まで可能で、利用者の希望やタイミング、状態に合わせて、ゆっくり入浴できるように支援している。入浴剤を入れて入浴したり、洗髪後のセットや浴衣を着る支援などしている。入浴したくない人には、時間や日にちを変えたり、職員が交替して、利用者の気持ちにそって入浴できるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中は自由に過ごしていただき、朝寝する方もいるが午後からは、スリープマネジメントを取り入れ昼寝も30分として16時から、体温を上げるような取り組みを実施しており、眠前薬を減らした実績がある。スリープマネジメントを取り入れており、朝寝は自由に出来るが午後からは、30分程度の昼寝とし、夕方には体温を上げて夜の睡眠がより自然に取れるように働きかけている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬をひとまとめにした「お薬情報」を用意していつでも確認が出来るようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	見学者への案内係を入居者をお願いしている。 編み物や縫い物をして過ごしたりする。 喫茶の日の決め、それぞれの希望を聞き、好みの物を選んでいただき楽しめるようにしている。 喫茶の日の買い物の係りとして買い物に出かける人、見学者に施設案内をする人、掃除の指導を職員にする係りなど、できることは率先して行ってもらっている。	テレビ視聴(時代劇、歌謡ショー、相撲など)、新聞や本を読む、ぬり絵、季節ごとの貼り絵、編み物、縫い物、習字、ゲーム、体操、ゴミ袋づくり、おやつづくり、外出、ドライブ、プランターや室内の植木の水やり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除など、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が張り合いのある日々を過ごせるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクを準備している。蛍狩り・花火見物・外食 皆さんの希望を聞きご家族やお店の協力も得て出かけられるよう支援している。 外出の機会を持つよう外出レクを取り入れている。 ご家族やお店の方の協力を得て実施の機会も多くなっている。	周辺の散歩、買い物、ドライブ（花見、梨狩り、ぶどう狩り、蛍や花火見物）など戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	知人との外出時には、小遣いを準備して自分でお金を払う体験を忘れないように大切にしている。 買い物の日を決め必要な物は自分の目で選び購入していただくようにしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や定期的に新聞を購読しており必ず本人に届けている。 年末には年賀状を書き、自分でポストに投函している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンの風が直接当たらないように窓際にテーブルを移動させている。ツバメが巣をかけており窓際がベストポジションになった。 季節の花や鉢飾りでも利用者様がいつでもお世話出来るようにしている。ツバメが巣作りを始めたころよりテーブルが移動し座ったままツバメの様子が見られるようにしたり、自由にテーブルを移動しその日の気分で一緒に座る人が変わったり出来る環境。	共有空間は明るく広々として、窓の外に広がる山々の自然の移り変わりを眺めることができ、壁面には、利用者と一緒に作った季節ごとの貼り絵が飾っており、季節の花や、鉢植の花木が置いてあるなど、季節を感じる事ができるように支援している。テレビ、椅子、ソファ、テーブルなどの配置を工夫して、利用者一人ひとりの居場所づくりや温度、湿度、換気、音にも配慮して、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの位置を替え雰囲気作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思い出のタンスを持ち込んでいる方がいる。 本人の思うように押し入れやタンスを置いている。 思い出の写真を飾ったりしている。	仏壇、机、椅子、タンス、テレビ、衣類掛け、生活用品、寝具などを持ち込み、ぬいぐるみや写真、自分の作品などを飾って落ち着いて過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドや押し入れに服をかけて自分で整理している方もいる。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホームのんびり村米川

作成日：平成 25年 2月 14日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	昨年11月に地域の方にも参加して頂き、初めての避難訓練(日勤体制)を行ったが、まだ全職員が行えていない為不安が残る。夜勤体制や風水害に対しても実施していく必要がある。	全職員が、日勤帯、夜勤帯の避難方法を認識し、地域の方とも連携体制が取れるような関係作りを行っていく。	・年2回、地域の方にも協力を呼びかけ、総合避難を行う。 ・その他にも職員同士で勉強会を開催し、避難経路や非常口、火災探知機、消火器の場所等を確認する。	1年
2	35	全職員を対象とした応急手当や初期対応の訓練を実施したことがない為、緊急時、適切な対応を全職員が行えない可能性がある。	緊急時、全職員が速やかに適切な対応がとれる。	・看護師による勉強会を開催し、マニュアル通りに応急手当や初期対応を全職員が適切に対応できるよう訓練する。	3ヶ月
3	14	内、外部研修を全職員が受ける機会が少なく、参加を自由に行っている為、全職員の技術力や知識力が同じようにスキルアップできない危険性がある。	多様化していく介護の技術や知識を全職員で共有できる。	・法人内部研修の年間計画を作成し、定期的を開催する。 ・外部研修を受けた職員による勉強会を行うことで、知識を共有する。	1年
4	5	議事録等を小規模多機能と一緒に進めていた為、役員からの意見や質問がどちらの事業所へのものなのかが分かりにくい。	事業所別に分ける。	・運営推進委員会は同じ日時に行うが、意見交換や質疑応答は事業所別に行い、議事録として残す。	1年
5	4	全職員に自己評価を閲覧はしていたが、理解するまでは至っていなかった為、参加できていない職員がいた。	全職員で外部評価を理解し取り組む。	・全職員に閲覧し、勉強会や個人面談等で理解を深めながら個々のそれぞれのスキルアップに繋げていく。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。